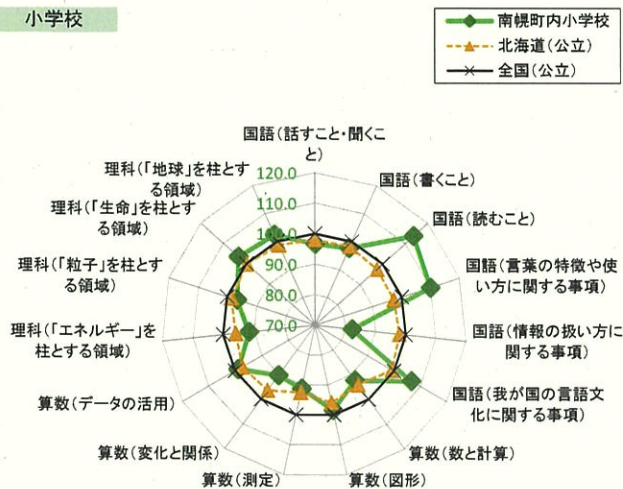


○ 教科に関する調査の状況

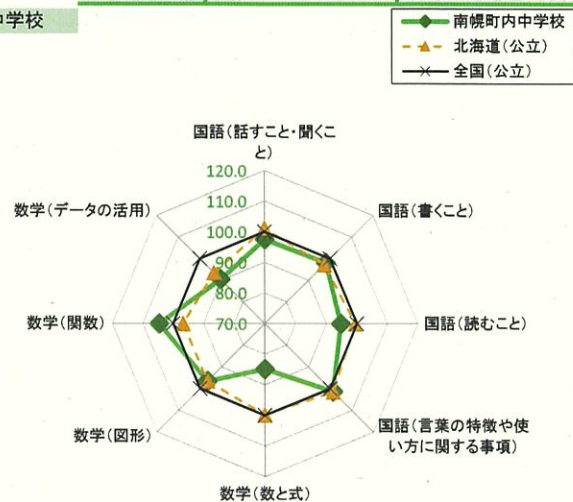
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校



中学校



【平均正答率・平均IRTスコア】

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
南幌町	69	54	57	53	45	487
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

<学校質問>

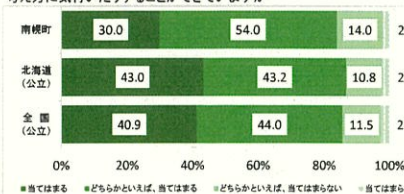
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



小学校

<児童質問>

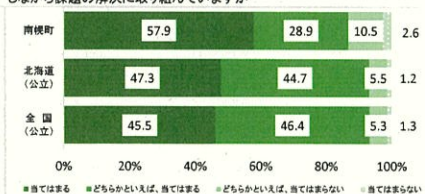
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



中学校

<生徒質問>

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



小学校

<児童生徒質問>

算数の授業の内容はよく分かりますか



中学校

数学の勉強は得意ですか



○ 調査結果の分析

- ・小学校において、児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道と同レベルになったと考えられる。

- ・中学校において、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

- ・小学校算数及び中学校の数学の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、小学校では算数の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合、中学校では数学の勉強は得意と回答した生徒の割合が全道及び全国を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

- ・児童生徒の授業の理解度等に応じた、一人一人の資質・能力を確実に育成する取組の推進
- ・ICT端末を活用した学習用アプリによる家庭学習の習慣化を図る取組の推進
- ・児童生徒の一人一人の状況に応じた指導や支援体制作りに向けた特別支援教育学習指導員の配置

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査

南幌町の調査結果の概要

令和 7 年 1 2 月
南幌町教育委員会

令和7年度全国学力・学習状況調査
南幌町の調査結果の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。更に、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒（原則）

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

①教科に関する調査

ア 小学校 国語・算数・理科

中学校 国語・数学・理科

イ 出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、調査問題では記述式の問題を一定割合で導入。

②質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施。

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施。

4 調査方式

悉皆調査（対象の全児童生徒）

5 調査期日

令和7年4月17日（木）

6 調査を実施した学校・児童生徒数

国語	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	936,137	870,560
北海道（公立）	34,203	33,467
南 幌 町	52	39

算数・数学	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	936,399	871,097
北海道（公立）	34,203	33,474
南 幌 町	52	39

理科	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	936,576	864,634
北海道（公立）	34,220	33,370
南 幌 町	52	37

II 結果考察

令和7年4月17日に実施された全国学力・学習状況調査結果を、前年度の状況や北海道、国と比較を行い、南幌町教育委員会として分析した結果を以下のとおり報告する。

1 調査結果について

全国学力・学習状況調査の正答率一覧を以下の表に示しています。

小学校		教科及び正答率（％）		
		国 語	算 数	理 科
令和7年度 正 答 率	南幌町	69.0%	54.0%	57.0%
	全 道	65.0%	55.0%	56.0%
	全 国	66.8%	58.0%	57.1%
令和6年度 正 答 率	南幌町	70.0%	62.0%	
	全 道	67.0%	61.0%	
	全 国	67.7%	63.4%	

中学校		教科及び正答率（％）		
		国 語	数 学	理 科
令和7年度 正 答 率	南幌町	53.0％	45.0％	487
	全 道	54.0％	47.0％	505
	全 国	54.3％	48.3％	503
令和6年度 正 答 率	南幌町	50.0％	47.0％	
	全 道	58.0％	51.0％	
	全 国	58.1％	52.5％	

【概要】

「理科」調査については、3年に1度の実施となっています。

「理科」調査の中学校については、今回よりC B T方式により、平均I R Tスコアで表記されています。

【結果考察】

前年度データや北海道、国と比較した分析内容。

1) 小学校

①国 語

正答率としては、全道・全国を2.2～4.0％程度上回る結果となっているが、前回調査と比較し1.0％下回っている。

前回との全道・全国の正答率の比較では、今年度の方が下回る結果となり、全体的に理解度が低かったと推察する。

②算 数

正答率としては、全道・全国ともに1.0～4.0％下回る結果となり、前回調査と比較しても8.0％下回っている。

前回との全道・全国の正答率の比較では、今年度の方が下回る結果となり、全体的に理解度が低かったと推察する。

2) 中学校

①国 語

正答率としては、全道・全国ともに1.0～1.3％下回る結果となっているが、前回調査と比較して3.0％上回っている。

前回との全道・全国の正答率の比較では、今年度の方が下回る結果となり、全体的に理解度が低かったと推察する。

②数 学

正答率としては、全道・全国を2.0～3.3％程度下回る結果となり、前回調査と比較しても2.0％と下回っている。

前回との全道・全国の正答率の比較では、今年度の方が下回る結果となり、全体的に理解度が低かったと推察する。

2 正答割合について

全国学力・学習状況調査における全教科の正答割合を算出した結果を次の表に示しています。

学校種	年 度	受験 人数	正 答 割 合			
			70%以上	50%以上 ～70%未満	30%以上 ～50%未満	30%未満
小学校	令和7年度	52人	36.5% (19人)	36.5% (19人)	21.2% (11人)	5.8% (3人)
	令和6年度	38人	60.6% (23人)	18.4% (7人)	10.5% (4人)	10.5% (4人)
	前回対比	14	△24.1%	18.1%	10.7%	△4.7%
中学校	令和7年度	39人	17.9% (7人)	25.7% (10人)	41.0% (16人)	15.4% (6人)
	令和6年度	49人	22.5% (11人)	24.5% (12人)	26.5% (13人)	26.5% (13人)
	前回対比	△10	△4.6%	1.2%	14.5%	△11.1%
中学生が小6の時の結果		36人	41.7% (15人)	27.8% (10人)	27.8% (10人)	2.7% (1人)

★調査年度で調査する児童生徒が異なるため、単純に前年度と比較をすることは出来ませんが、小・中学校とも前回調査より平均して下回った結果となっています。

今年度中学3年生が小学6年生の時に実施した数値を参考に記載しています。

3 児童生徒質問紙調査と学力の相関分析について

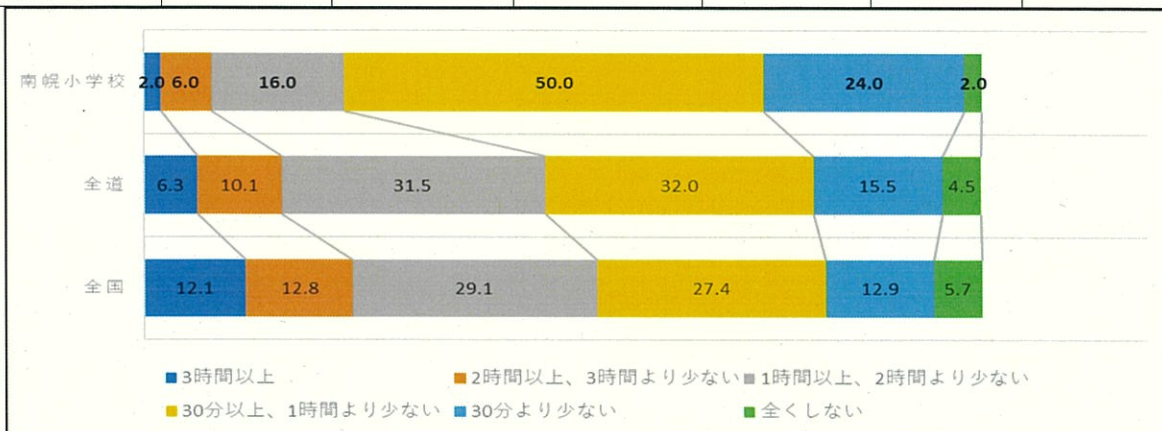
全国学力・学習状況調査の中で児童生徒質問紙調査（小学校86項目・中学校76項目）が実施され、学力に起因すると思われる項目について、前回調査と比較し分析を行いました。

【質問紙調査から抽出した項目】①～⑮項目

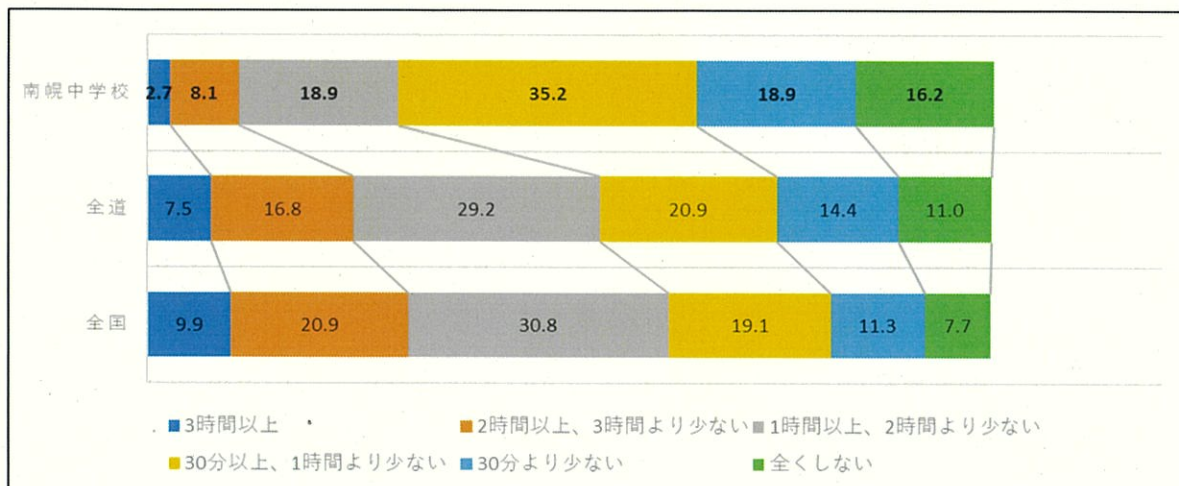
小学校回答者50人、中学校回答者37人（教科の受験人数とは合致しません。）

① 家庭学習時間（質問17）【質問内容：平日1日あたりの勉強時間】

小学校	全くしない	30分以内	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
令和7年度	2.0% (1人)	24.0% (12人)	50.0% (25人)	16.0% (8人)	6.0% (3人)	2.0% (1人)
令和6年度	5.4% (2人)	18.9% (7人)	35.1% (13人)	27.0% (10人)	8.1% (3人)	5.4% (2人)
前回対比	△3.4%	5.1%	14.9%	△11.0%	△2.1%	△3.4%



中学校	全くしない	30分以内	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
令和7年度	16.2% (6人)	18.9% (7人)	35.2% (13人)	18.9% (7人)	8.1% (3人)	2.7% (1人)
令和6年度	15.6% (7人)	20.0% (9人)	24.4% (11人)	26.7% (12人)	11.1% (5人)	0% (0人)
前回対比	0.6%	△1.1%	10.8%	△7.8%	△3.0%	2.7%

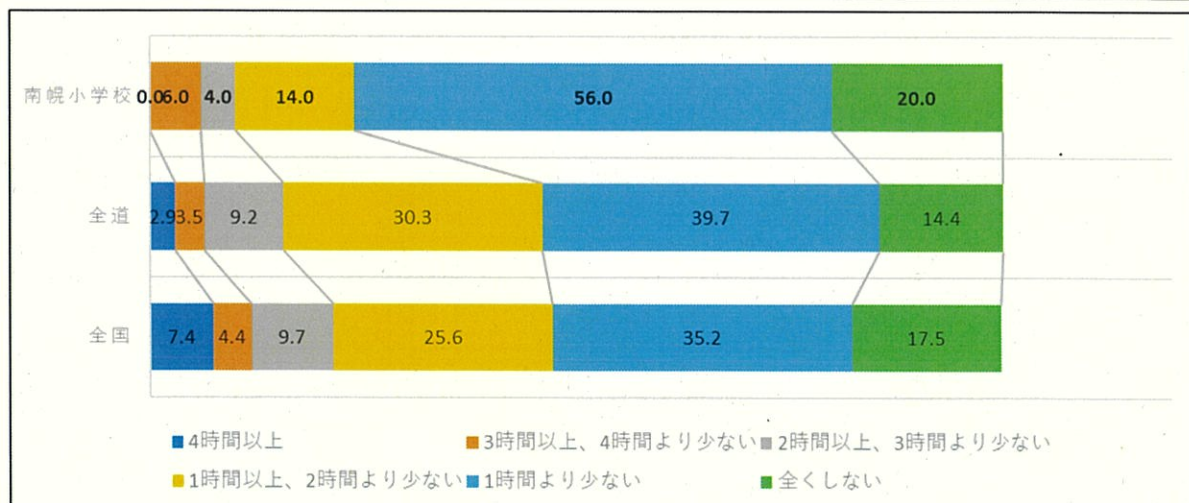


★小学校前回調査との比較では、1時間以上の割合が24.0%と、16.5%減少しており、全くしないという児童もいることから、家庭学習に向けた取組が課題であると考えます。

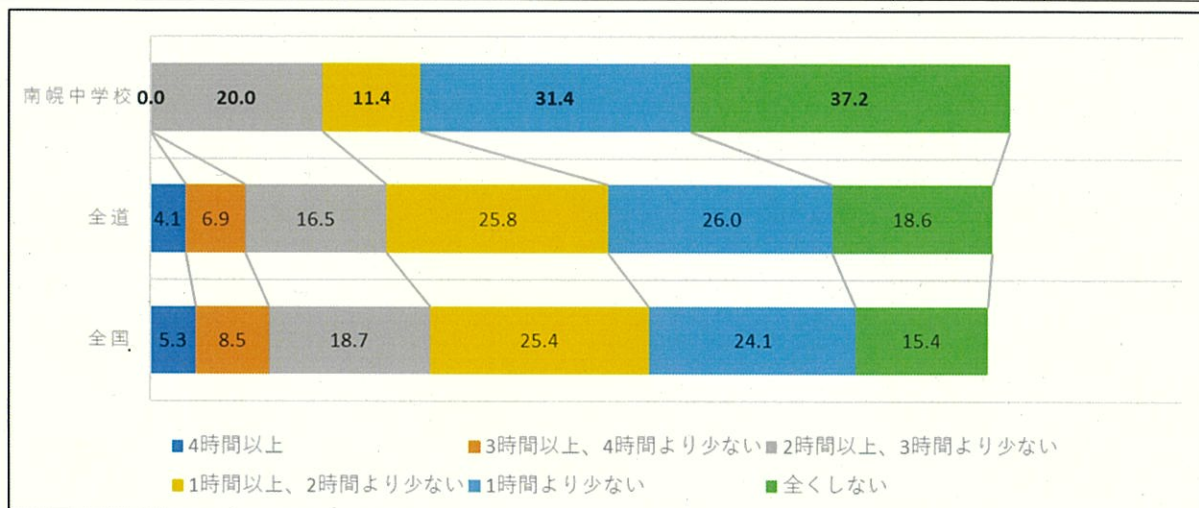
中学校前回調査との比較では、1時間以上の割合が29.7%と、8.1%減少しており、全くしないという生徒の割合も増加しているため、小学校と同様に家庭学習に向けた取組が課題であると考えます。

② 家庭学習時間（質問19）【質問内容：土日、学校が休みの日の勉強時間】

小学校	全くしない	1時間以内	1時間～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
令和7年度	20.0% (10人)	56.0% (28人)	14.0% (7人)	4.0% (2人)	6.0% (3人)	0% (0人)
令和6年度	18.9% (7人)	48.6% (18人)	18.9% (7人)	5.4% (2人)	2.7% (1人)	5.4% (2人)
前回対比	1.1%	7.4%	△4.9%	△1.4%	3.3%	△5.4%



中学校	全くしない	1時間以内	1時間～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
令和7年度	37.2% (13人)	31.4% (11人)	11.4% (4人)	20.0% (7人)	0% (0人)	0% (0人)
令和6年度	31.1% (14人)	31.1% (14人)	22.2% (10人)	8.9% (4人)	4.4% (2人)	0% (0人)
前回対比	6.1%	0.3%	△10.8%	11.1%	△4.4%	0%



★小学校前回調査と比較すると、2時間以上の割合は10.0%で3.5%減少、中学校においては、2時間以上の割合は20.0%で6.7%増加しています。

平日の学習時間と同様に、全くしないと回答している割合が増加しており、50%以上の平均正答率も減少となっていると推察する。

この結果からも前段でも述べていますが、家庭学習の取組みを一層強化する必要があると考えます。

③ 新聞を読んでいるか (質問23)

小学校	ほとんど・全く読まない	月に1～3回程度	週に1～3回程度	ほぼ毎日
令和7年度	82.0% (41人)	14.0% (7人)	2.0% (1人)	2.0% (1人)
令和6年度	91.9% (34人)	5.4% (2人)	2.7% (1人)	0% (0人)
前回対比	△9.9%	8.6%	△0.7%	2.0%

中学校	ほとんど・全く読まない	月に1～3回程度	週に1～3回程度	ほぼ毎日
令和7年度	81.3% (26人)	12.5% (4人)	3.1% (1人)	3.1% (1人)
令和6年度	91.1% (41人)	2.2% (1人)	2.2% (1人)	0% (0人)
前回対比	△9.8%	10.3%	0.9%	3.1%

★昨年度同様、小・中学校ともに、新聞を読む習慣は極めて低いことがわかる。

文科省が位置づけしている学習指導要領では、新聞読解習慣と学力との間に相関関係があり、教育にも新聞の必要性を述べています。

小・中学校において新聞を定期購読しているため、新聞を活用し学力向上に繋げて欲しいと考えます。

④ 就寝（質問２）【質問内容：毎日、同じ時間に就寝しているかどうか】

小学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和７年度	0%（0人）	12.0%（6人）	40.0%（20人）	48.0%（24人）
令和６年度	5.4%（2人）	18.9%（7人）	35.1%（13人）	40.5%（15人）
前回対比	△5.4%	△6.9%	4.9%	7.5%

中学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和７年度	0%（0人）	11.1%（4人）	55.6%（20人）	33.3%（12人）
令和６年度	2.2%（1人）	11.1%（5人）	44.4%（20人）	40.0%（18人）
前回対比	△2.2%	0%	11.2%	△6.7%

⑤ 起床（質問３）【質問内容：毎日、同じ時間に起床しているかどうか】

小学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和７年度	0%（0人）	8.0%（4人）	30.0%（15人）	62.0%（31人）
令和６年度	2.7%（1人）	8.1%（3人）	40.5%（15人）	48.6%（18人）
前回対比	△2.7%	△0.1%	△10.5%	13.4%

中学校	全くしていない	あまりしていない	どちらかといえば	している
令和７年度	0.0%（0人）	5.4%（2人）	37.8%（14人）	56.8%（21人）
令和６年度	0.0%（0人）	6.7%（3人）	26.7%（12人）	64.4%（29人）
前回対比	0%	△1.3%	11.1%	△7.6%

⑥ 朝食（質問１）【質問内容：毎日、朝食を食べているか】

小学校	全く食べていない	あまり食べてない	どちらかといえば	食べている
令和７年度	0%（0人）	6.0%（3人）	14.0%（7人）	80.0%（40人）
令和６年度	2.7%（1人）	8.1%（3人）	16.2%（6人）	73.0%（27人）
前回対比	△2.7%	△2.1%	△2.2%	7.0%

中学校	全く食べていない	あまり食べてない	どちらかといえば	食べている
令和７年度	0%（0人）	5.4%（2人）	16.2%（6人）	78.4%（29人）
令和６年度	0%（0人）	4.4%（2人）	13.3%（6人）	82.2%（37人）
前回対比	0%	1.0%	2.9%	△3.8%

★④～⑥については「早寝・早起き・朝ご飯」運動が定着されているかどうか確認できる質問です。

小・中学校ともに、「同じ時間に寝る（起きる）」「朝食を食べている」児童生徒の割合が「どちらかといえば」を含めても、おおむね規則正しい生活を送るためのリズムが定着していると推察しますが、小・中学校とも朝食をあまり食べていないと回答している児童生徒が一部いることから、引き続き「早寝・早起き・朝ご飯」

運動を栄養教諭と連携し、食育を通じた取組が必要と考えます。

⑦ ICT活用（質問28）【質問内容：学校の授業でタブレットなどのICT機器をどの程度使用したか】

小学校	月1回未満	月1回以上	週1回以上	週3回以上	ほぼ毎日
令和7年度	2.0% (1人)	2.0% (1人)	10.0% (5人)	16.0% (8人)	70.0% (35人)
令和6年度	0% (0人)	2.7% (1人)	21.6% (8人)	45.9% (17人)	29.7% (11人)
前回対比	2.0%	△0.7%	△11.6%	△29.9%	40.3%

中学校	月1回未満	月1回以上	週1回以上	週3回以上	ほぼ毎日
令和7年度	0% (0人)	2.7% (1人)	5.4% (2人)	29.7% (11人)	62.2% (23人)
令和6年度	0% (0人)	0% (0人)	4.7% (2人)	△19.1% (21人)	46.5% (20人)
前回対比	0%	2.7%	0.7%	25.0%	15.7%

★一人1台端末であるchromeは、今や鉛筆やノートと並ぶものとなっています。

ICTの活用は、自治体間格差、学校間格差が指摘されてもいますので、ICT支援員と連携し日常的に活用できる環境づくりを進めていく必要があります。

⑧ ICT活用（質問18）【質問内容：学校の授業時間以外に普段1日あたりタブレットなどのICT機器を勉強のために使っているかどうか】

小学校	全くない	30分以内	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
令和7年度	36.0% (18人)	34.0% (17人)	24.0% (12人)	6.0% (3人)	0% (0人)	0% (0人)
令和6年度	37.8% (14人)	29.7% (11人)	21.6% (8人)	5.4% (2人)	5.4% (2人)	0% (0人)
前回対比	△1.8%	4.3%	2.4%	0.6%	△5.4%	0%

中学校	全くない	30分以内	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上
令和7年度	45.7% (16人)	34.3% (12人)	8.6% (3人)	11.4% (4人)	0% (0人)	0% (0人)
令和6年度	48.9% (22人)	20.0% (9人)	8.9% (4人)	13.3% (6人)	4.4% (2人)	2.2% (1人)
前回対比	△3.2%	14.3%	△0.3%	△1.9%	△4.4%	△2.2%

★小・中学校とも、勉強のためにICTを使っている割合は、1時間未満が多い状況なので、学習用アプリ（スマイルネクスト）の活用を推進しています。

ICTを効果的に活用していくことで、家庭学習の時間も増え、学力の向上に繋がっていくと考えます。

⑨学習（質問３８）【質問内容：先生は、テストや授業で間違えたところや、理解していないところを、分かるまで教えてくれていると思う】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和７年度	2.0%（１人）	6.0%（３人）	46.0%（23人）	46.0%（23人）
令和６年度	0%（０人）	2.7%（１人）	29.7%（11人）	67.6%（25人）
前 回 対 比	2.0%	3.3%	16.3%	△21.6%

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和７年度	5.4%（２人）	13.5%（５人）	45.9%（17人）	35.2%（13人）
令和６年度	2.2%（１人）	11.1%（５人）	42.2%（19人）	42.2%（19人）
前 回 対 比	3.2%	2.4%	3.7%	△7.0%

★小学校、中学校ともにどちらかといえば当てはまる・当てはまると回答した児童生徒が多い状況ですが、小学校と比べると中学校では若干低くなっています。

中学校では、現在、少人数学級（35人）の取組が進められており、今後もきめ細かな指導が行われるよう努めていきます。

⑩国語について（質問４２・４４）【質問内容：国語の勉強は好き・授業の内容は分かる】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
国語は好き	8.0%（４人）	24.0%（12人）	44.0%（22人）	24.0%（12人）
内容は分かる	6.0%（３人）	16.0%（８人）	52.0%（26人）	26.0%（13人）

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
国語は好き	10.8%（４人）	27.0%（10人）	40.6%（15人）	21.6%（８人）
内容は分かる	0%（０人）	8.3%（３人）	47.2%（17人）	44.5%（16人）

★小・中学校とも国語の授業が好きな割合は60%以上となっています。

また、授業の内容が分かると回答した割合では、小・中学校ともに国語の授業が好きと回答した割合より高くなっています。

これは、国語があまり好きではない児童生徒がいる中でも、分かりやすい授業になるよう、日常的に先生が工夫して進めていることが推察されます。

⑪算数について（質問５３・５４）【質問内容：算数の勉強は好き・授業の内容は分かる】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
算数は好き	24.0% (12人)	36.0% (18人)	14.0% (7人)	26.0% (13人)
内容は分かる	6.0% (3人)	22.0% (11人)	44.0% (22人)	28.0% (14人)

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
算数は好き	29.8% (11人)	18.9% (7人)	24.3% (9人)	27.0% (10人)
内容は分かる	10.8% (4人)	16.2% (6人)	43.3% (16人)	29.7% (11人)

★算数・数学についても、国語と同様で、小・中学校ともに算数の授業が好きと回答した割合より、授業の内容が分かったと回答した割合が高いことから、日常的に先生が工夫して進めていることが推察されます。

⑫相談（質問１０）【質問内容：困りごと、不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる】

	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
小学校	12.0% (6人)	22.0% (11人)	44.0% (22人)	22.0% (11人)
中学校	2.7% (1人)	35.1% (13人)	37.9% (14人)	24.3% (9人)

★相談できる児童生徒の割合は高いものの、一定程度当てはまらないなどと回答している児童生徒もいることから、ほっとやＱＵを活用し、引き続き児童生徒の理解を深めていく必要があると考えます。

⑬自己肯定感（質問５）【質問内容：自分には、よいところがあるかどうか】

小学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和７年度	6.0% (3人)	6.0% (3人)	54.0% (27人)	34.0% (17人)
令和６年度	2.7% (1人)	16.2% (6人)	37.8% (14人)	43.2% (16人)
前回対比	3.3%	△10.2%	16.2%	△9.2%

中学校	当てはまらない	どちらかといえば 当てはまらない	どちらかといえば 当てはまる	当てはまる
令和７年度	10.8% (4人)	10.8% (4人)	59.5% (22人)	18.9% (7人)
令和６年度	6.7% (3人)	17.8% (8人)	62.2% (28人)	13.3% (6人)
前回対比	4.1%	△7.0%	△2.7%	5.6%

★小学校の前回調査と比較すると、当てはまる及びどちらかという当てはまると思っている児童の割合が88.0%で7.0%高くなっており、中学校でも前回調査と比較すると、当てはまる及びどちらかという当てはまると思っている児童の割合が78.4%で2.9%高くなっている。

自己肯定感が低いと、自分に価値を見出せなくなり、否定する機会が増え、生き苦しさやストレスが強くなる傾向があります。

生徒の自己肯定感を高めるために、学校が日々の授業やコミュニケーションを通じて児童生徒の成長を見守り、学校と地域が一体となってサポート体制を整えることができる環境づくりができるよう、教育委員会として支援していく必要があると考えます。

【総括】

児童生徒の正答率を上げていくため、家庭学習時間の定着は勿論、計画的な学習を行うことが必要であることが改めて確認できた。

また、教科別において国語では、小学校は情報の扱い方に関する事項（原因と結果などの理解力、情報と情報との関係や図における語句と語句との関係）で中学校では読むこと（文章を比較したり、文章の要旨の把握、文章から知識と経験と結び付け、自分の考えを広めたり深める）、小学校算数では変化と関係、中学校数学では数と式が全国・全道ともに平均正答率が下回っていることから、これらを重点に取り組む必要があると考える。

このことから、南幌町教育委員会としては、北海道教育委員会が作成する「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える」を参照に、「なんぼろ学力向上メッセージ」を作成し、保護者に配布し家庭内でも話し合いを持つ機会の創出を図っていきたい。

また、公設学習塾の取り組みについても併せて周知を行い、更なる学力の向上に繋げていきたいと考えている。